

徳島赤十字病院初期臨床研修プログラム：耳鼻咽喉科

コース責任者：阿部 晃治

研修期間：選択科として4週間から

I：一般目標 (GIO: General Instructional Objective)

耳鼻咽喉科疾患の基礎的な検査及び診療技術を習得し、基礎的な耳鼻咽喉科疾患の診断とプライマリケアができる知識を得ることを目標とする。

II：行動目標 (SBOs: Specific Behavioral objectives)

A. 基本姿勢・態度 研修医手帳を参照

B. 診察法・検査・手技

①主な医療面接・基本的な身体診察法

- 1) 耳鼻咽喉科の特殊な器具を用いて、身体所見をとり、正確に記載できる。
- 2) 一般的な疾患（めまい、扁桃炎、聴覚障害など）の診断と治療を行うことができる。

②主な基本的な臨床検査

- 1) 平衡機能検査、聴力検査、内視鏡検査（鼻腔、咽喉頭、嚥下）、鼻アレルギー検査の結果を評価することができる。
- 2) XP、CT、MRIなどの画像検査を必要に応じてオーダーし、読影を行い正確に評価することができる。

③主な基本的手技

・処置・手術・その他

- 1) 鼻出血の止血処置、異物（外耳道、鼻腔、咽頭など）除去などの基本的な処置や手術を行うことができる。
- 2) 緊急性のある疾患を理解し、適切な処置を行うことができる。

C. 主な症状・病態の経験

①疾患

めまい、鼻出血、聴覚障害 など

Ⅲ：学習方法 (LS : Learning Strategy)

1) LS (方略) 1 : On-the-job training

■ 主な病棟業務

- ・ 指導医または上級医の指導のもとで、めまい、聴覚障害などの入院診療を受け持ち、必要な検査、治療を行う。その他の入院患者についても病棟回診に参加する。

■ 主な外来業務

- ・ 初診患者の予診をする。指導医または上級医による当該患者の診療に参加する。
- ・ めまい、鼻出血などの救急患者の診療を、指導のもとで行う。

■ 補足

① 手術業務

- ・ 指導医または上級医の指導のもと、一般的な耳鼻咽喉科手術に参加する。また、参加した症例の手術後の管理を指導医または上級医とともに行う。

2) LS (方略) 2 : カンファレンス・勉強会

- ・ カンファレンスに参加し、疾患、治療方針の決定過程を理解する。
- ・ カンファレンスで症例提示をする。当該患者の疾患理解など事前準備をする。

3) LS (方略) 3 : 学会・研究会・学術活動

- ・ 学術講演会や各種の院内研修（医療安全や感染対策など）に積極的に参加する。
- ・ 耳鼻咽喉科疾患に対する講演会や研修会に積極的に参加して知識を深めるとともに、学会発表や症例報告論文を作成する能力を身に付ける。

○週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	外来業務※ ¹	病棟回診※ ¹	手術※ ¹	外来業務※ ¹	病棟回診※ ¹
午後	外来業務もしくは検査	手術	手術	病棟業務もしくは検査	病棟業務

※1) 外来業務及び病棟回診は、曜日を決めずに週2回、外来業務及び病棟回診を行う。

IV：学習評価 (EV：Evaluation)

EPOCによる総合評価

- 1) 個々の診療記録と退院要約（サマリー）は、定期的に指導医の評価と承認を受ける。
※退院要約（サマリー）は、1週間以内に記載すること。
- 2) ローテイト研修終了時に、EPOCに診療経験にもとづく自己評価を行い、指導医による評価を受ける。
- 3) 診察態度や協調性について看護部及びメディカルスタッフ等による360度評価を行う。